

(仮称)草津市歴史資料館整備基本計画 概要

史跡芦浦観音寺跡および周辺の市域北部に特に色濃く残る「信仰文化」と「民俗」の2つをテーマに掲げ、人々の祈りやくらしにまつわる歴史資産の保存・展示・公開・活用を行う「(仮称)草津市歴史資料館」(以下、「本資料館」という)の整備に向けた『(仮称)草津市歴史資料館整備基本構想』(令和6年7月策定)を策定しました。

この度、本資料館の整備に向けて、整備基本構想に基づき、具体的な施設の在り方を検討する整備基本計画※(以下、「本計画」という)を策定いたします。基本構想で示された目指すべき姿を実現するために、機能や事業展開、設備、展示の計画等を具体的に検討します。

▶ 基本理念・基本方針(第2章-2)

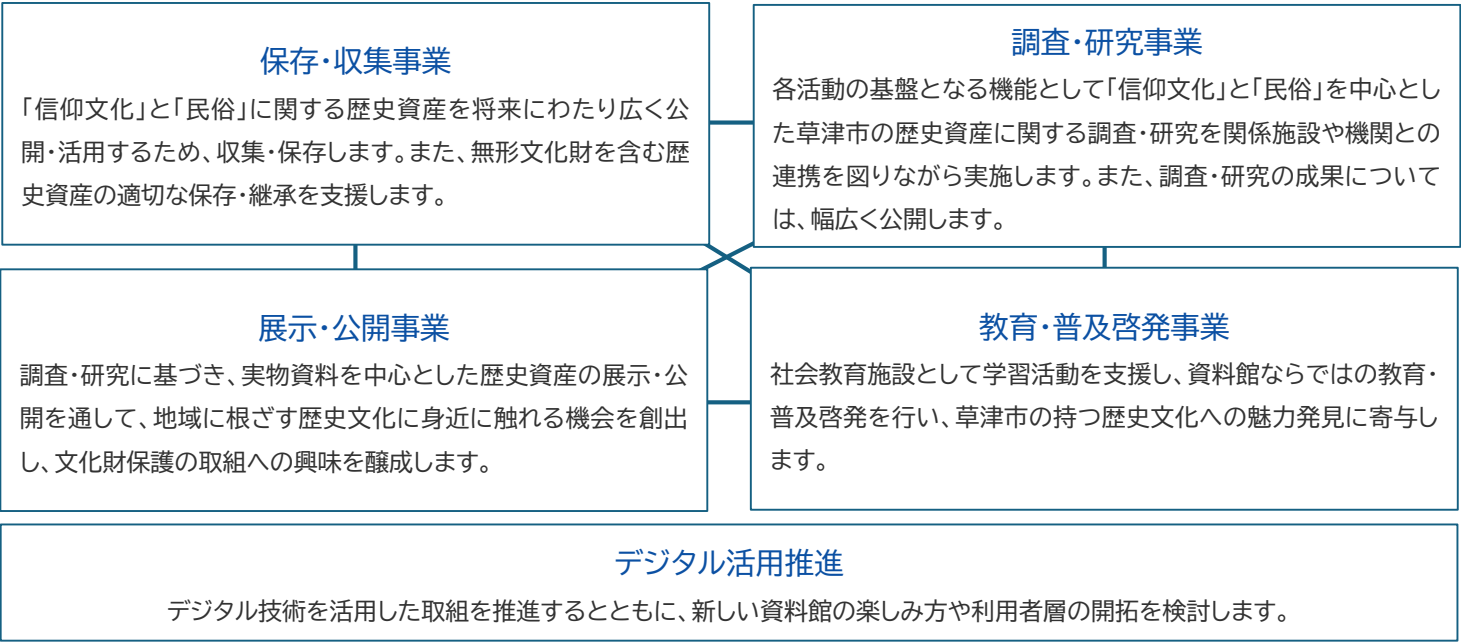
【基本理念】
草津の祈りとくらしを未来につなぐ資料館

基本方針 1
草津市の「信仰文化」と「民俗」に関する歴史資産の保存と活用に取り組みます。

基本方針 2
歴史資産の公開・活用を通して、市民のふるさと意識醸成に寄与します。

基本方針 3
史跡芦浦観音寺跡をはじめ、地域や周辺施設と連携し、地域の魅力向上につなげます。

▶ 事業活動計画(第2章-3)



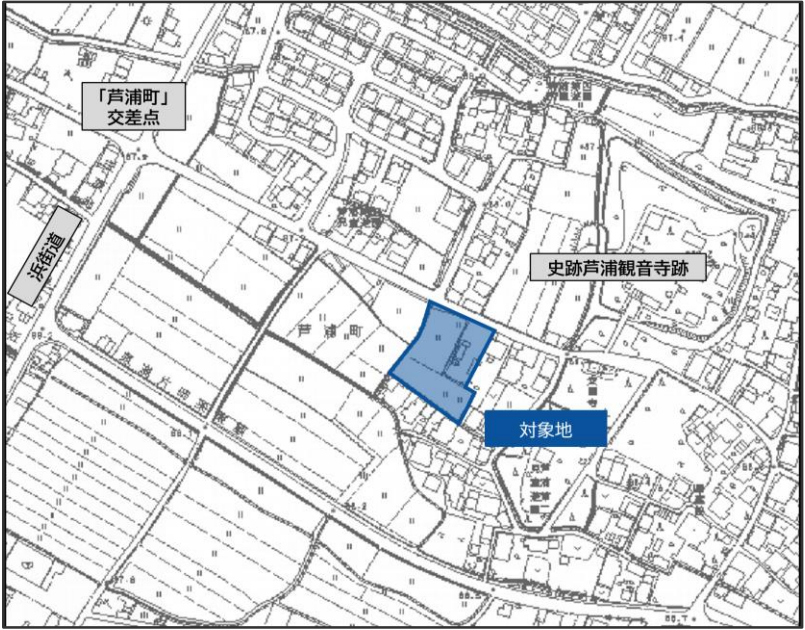
▶ 施設計画 基本方針(第3章-1)

- 1. 地域の歴史資産の保存・継承のための施設整備
- 2. 史跡芦浦観音寺跡をはじめとした周辺環境との調和
- 3. 誰もが利用しやすい地域に根差した空間の創出
- 4. 維持管理・環境保全への配慮

▶ 計画地(第3章-2)

史跡芦浦観音寺跡とのつながりを重視し、右記の場所を予定します。

所在地	草津市芦浦町451番地
敷地面積	2938.49㎡
都市計画関連	市街化調整区域



▶ 施設構成(第3章-3)

事業計画	区画	諸室	想定面積
保存・収集事業	保存・研究区画	収蔵庫・前室・トラックヤード・荷解室	380㎡
調査・研究事業	保存・研究区画	作業室・資料室・写場	70㎡
展示・公開事業	展示区画	常設展示室 企画展示室	300㎡
教育・普及啓発事業	展示区画	講座室・体験学習室・情報・図書コーナー	180㎡
	管理区画	管理事務室・会議室・受付・エントランス・倉庫・その他管理施設	320㎡
【参考】			
屋外		屋外広場・屋外体験スペース・駐車場 その他(屋外管理スペース等)	—

▶ 展示計画 基本方針(第4章-1)

1. 2つの展示空間を整備

「常設展示」と「企画展示」の2つの空間を構成し、多様な角度から地域の魅力を知る機会を提供します。

(1)常設展示 いつでも地域の歴史資産に身近に接し、学ぶことのできる場を提供
現物展示だけでなく、レプリカやデジタル技術を用いた展示にも活用

【常設展示の展示テーマ「祈りとくらし」】

信仰文化	市域各地の寺社等に伝わる美術工芸品・歴史資料を展示し、豊かな信仰文化を紹介
民俗	地域で受け継がれてきた民俗行事や芸能から人々のくらしとまつりを紹介

(2)企画展示 市域に残る豊かな歴史文化について、より広く知ることができるよう様々なテーマに沿った企画展示の開催

通常時

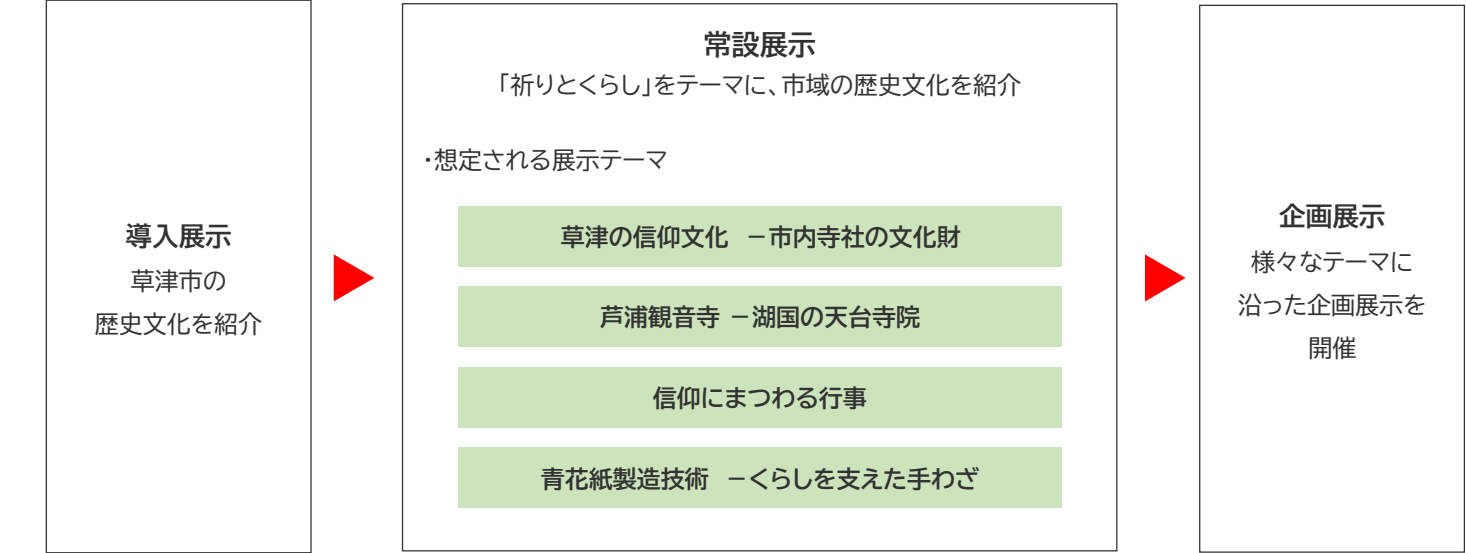
2. 誰もが歴史文化に親しむことのできる展示

五感を使った体験型展示等、言語や年齢、障害の有無に関わらず、歴史に親しんでいただける展示を行います。

3. 資料が持つ文化的背景や地域とのつながりを感じることのできる展示

本資料館をきっかけに、文化財の保存修理技術や継承の担い手、市内に残る寺社等、地域や文化財を取り巻く人々や環境に関心を持っていただけるような紹介を行います。

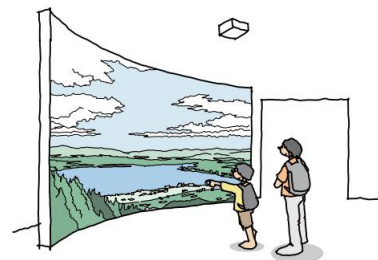
▶ 展示構成(第4章-2)



▶展示各ゾーンの考え方(第4章-3)

1.導入展示

草津市の歴史文化の特徴を紹介し、常設展示の導入とします。



導入展示イメージ

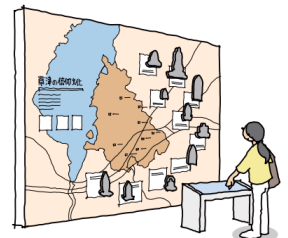
2.常設展示:草津の信仰文化ー市内寺社の文化財

市域の寺社の歴史や残された仏像や神像、美術工芸品、古文書等を通じて、市域の信仰の歴史やあり方について紹介します。

3.常設展示:芦浦観音寺ー湖国の天台寺院

古文書や美術工芸品等の資料から芦浦観音寺の持つ歴史を伝えます。

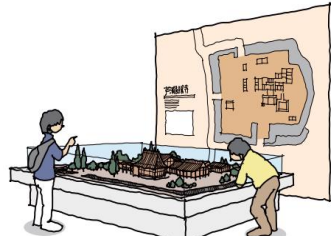
また、史跡芦浦観音寺跡の見学の体験価値を向上させ、相乗効果を得られる展示とします。



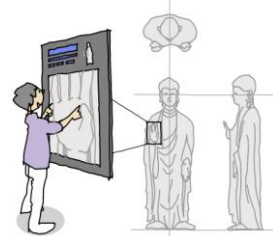
文化財検索タブレットイメージ



壁面ケースイメージ



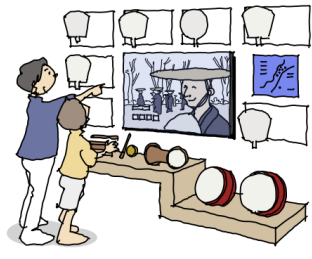
復元模型イメージ



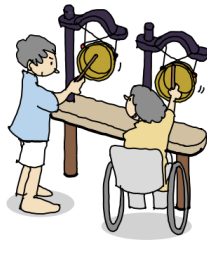
デジタル展示体験イメージ

4. 常設展示:信仰にまつわる行事

信仰の場として、現在まで継承されている祭礼行事や芸能を紹介します。特に、草津市の代表的な民俗文化財であり、祭礼の場で奉納される民俗芸能である「風流踊」を中心にして、人々が信仰の形をどのように示してきたのかを伝えます。



祭礼行事展示イメージ



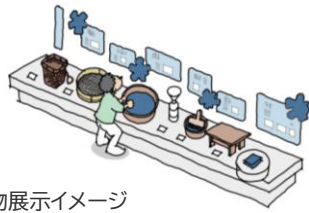
ハンズオンイメージ



神饌の復元模型イメージ

5. 常設展示:青花紙製造技術ーくらしを支えた手わざ

人々のくらしを支えた青花紙の歴史と、青花紙製造技術を紹介します。友禅染や絞染をはじめとする染織技術を支える素材、あるいは浮世絵の青色染料、近江を代表する名産品といった、青花紙が持つさまざまな側面も多角的に紹介します。



道具の実物展示イメージ



青花紙製造体験イメージ

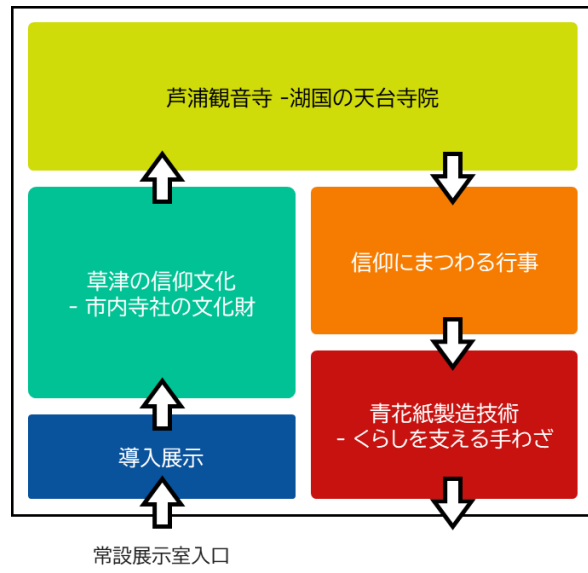
6. 企画展示

調査・研究成果を生かし、専門性・企画性の高い多様なテーマの展示を実施するフレキシブルな展示スペースとして整備を行います。様々なテーマに沿った企画展示を企画し、市域に残る豊かな歴史文化について、より幅広く、深く知ることができるよう、公開・発信していきます。また、他の博物館との連携展示等、ひとや地域のつながりを広げる展示を積極的に企画します。

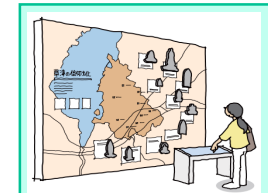
企画展示テーマ(案)

・草津に伝わる鎌倉時代の仏像 ・草津の古代寺院 ・草津の食文化 ・昔のくらし 等

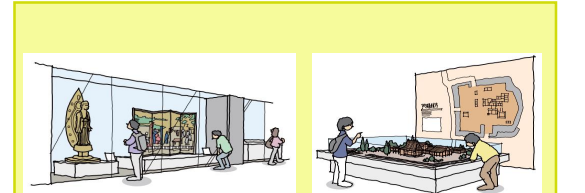
▶ 展示ゾーニングイメージ案(第4章-5)



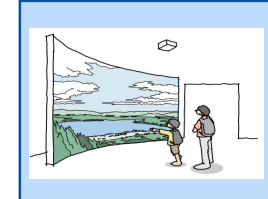
常設展示室入口



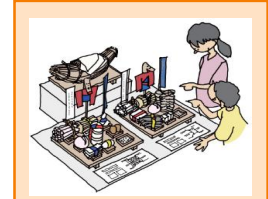
草津の信仰文化 展示イメージ



芦浦観音寺 展示イメージ



導入展示 展示イメージ



信仰にまつわる行事 展示イメージ



青花紙製造技術 展示イメージ

▶ 管理運営計画(第5章-1)

4つの基幹的事業を安定的に遂行するため、合理化・効率化を図りつつ、本資料館の使命を持続的に果たす運営を目指します。

・運営方式

PFI方式は、資料館の規模から、民間事業者が参入するメリットが小さく、費用に見合う効果が見込みにくい状況です。また、文化財の保存・展示という公共性の高い役割を担っていることや、リスクの分担が難しいといった課題などもあります。

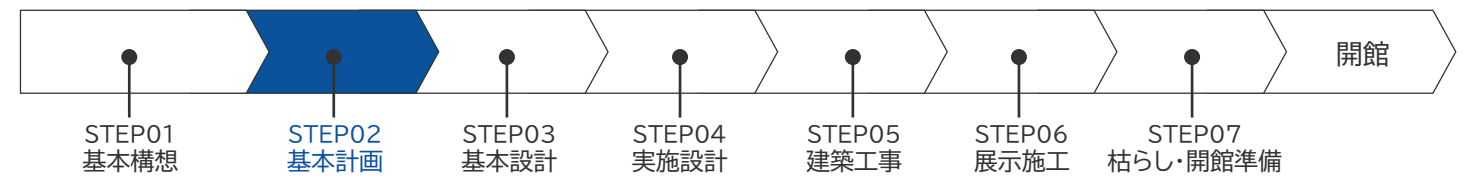
そのため、市の意向を直接反映でき、継続的・安定的な運営が可能な「直営方式」を基本として検討します。ただし、調査研究や収集保存、展示企画等の公共性の高い学芸部門は市が直接担い、イベント等の普及啓発や情報発信等の民間活用が可能な業務、清掃・警備・保守点検といった効率化が可能な業務を民間へ委託する「ハイブリッド型」の検討が現実的です。

また、公の施設における管理運営については、指定管理者方式といった選択肢も含まれます。

想定される「ハイブリッド型」の例

	例 ①	例 ②	指定管理者方式	【参考】 草津宿街道交流館
館長	自治体	自治体	(主に)民間	自治体
学芸部門 (調査研究 展示企画等)	自治体	自治体	(主に)自治体	自治体
広報部門 (普及啓発 情報発信等)	民間	自治体	(主に)民間	自治体
維持管理部門 (清掃・警備 保守点検等)	民間	民間	(主に)民間	民間

▶ 資料館整備フロー(第5章-3)



※埋蔵文化財発掘調査や工事の進捗、「枯らし」の期間によって、必要な期間が変動するため、本計画では具体的な年度は記載しておりません。